

調査問題の分析

本資料の見方

付けたい力の 明確化

問題や授業において「付けたい力(資質・能力)」を示しています。付けたい力を明確にした上で、そのために必要な学習活動や適切な支援・手立てを計画することが大切です。



「主体的・対話的で深い学び」の実現につながる「読み解く力」の視点を踏まえた授業づくりについて、プロセスごとに示しています。

小学校国語	2 ページ
小学校算数	6 ページ
中学校国語	10 ページ
中学校数学	14 ページ
児童生徒質問調査	19 ページ
学校質問調査	22 ページ

令和6年6月

滋賀県教育委員会事務局幼小中教育課

小学校 国語

【全体を通して】



- ・昨年度に引き続き、目的や意図に応じて、複数の資料や文章から、必要な情報を取り出して解答する問題が出された。
- ・記述式の問題において、「たてわり遊びのよさ」を伝えるという目的に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫したり、文学的な文章を読んで、精査・解釈したことをもとに、自分の考えをまとめたりする力が問われた。
- ・〔知識及び技能〕に関しては、文法や漢字の書き取りについては大問の中の小問として一体的に出題され、基礎的・基本的な知識・技能が定着しているかを問われた。文法については、令和3年度調査で課題がみられたことから、「文の中における主語と述語との関係を捉えること」が継続して指導できているかみるものとなっている。
- ・全体として、資質・能力を育成するためには、指導事項を明確にし、児童が目的意識をもち続け、自分の考えを広げ、深めて表現することができる単元の構想が求められていることが分かる問題構成となっている。また、オンライン交流や端末を利用して思考を整理する等、ICTを効果的に活用することや、児童が読書の楽しさや有効性を実感しながら、主体的、継続的に読書を行うことが必要であるというメッセージが感じられる問題であった。

【指導改善のポイント】

◇育成を目指す資質・能力を明確にし、児童自身が学びを自覚できる単元を構想する

- 児童の興味・関心や学びの状況を踏まえて、児童が主体的に取り組むことのできる言語活動を設定する。
- 児童が学習の見通しをもって取り組んだことを振り返り、自身の学びや変容を自覚できる場面を設定する。

◆自分の考えを深め、記述したり表現したりする指導の充実

- 文章を読んで理解したことについて、既存の知識や理解した内容と結び付けて自分の考えをまとめる学習活動を取り入れる。
- 複数の資料から、目的に応じて必要な情報を取捨選択したり、整理したり、再構成したりする学習活動を取り入れる。
- 理由や事例を明確にしながら、筋道を立てて自分の考えを書く活動を取り入れる。その際、事実を客観的に書くとともに、その事実と感想や意見との関係を十分に捉えて書くことや、事実と感想、意見とを区別して書くために、文末表現に注意することを指導する。(➡P4～5参照)

◇学校図書館とICTを効果的に活用する

- 学校図書館を活用し、児童が日常的に読書に親しみ、読書が自分の考えを広げることに役立つことに気付くように指導する。
- オンライン交流やインタビュー等、実際の交流場面を端末で記録して、自身の話し方の良い点や改善点を見付けたり、メモの効果を実感したりするなど、児童が自身の学びにとって必要性を感じられる場面でICTを活用できるようにする。



○調査問題の一覧

小学校国語

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の内容						評価の観点			問題形式				
			知識及び技能			思考力、判断力、表現力等			知識	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式		
			(1)	(2)	(3)	A	B	C								
			関 言 葉 の 特 徴 や 使 い 方 に 関 する 事 項	情 報 の 扱 い 方 に 関 する 事 項	我 が 国 の 言 語 文 化 に 関 する 事 項	話 す こ と ・ 聞 く こ と	書 く こ と	読 む こ と								
1	一	学校の取り組みを紹介する内容を【和田さんのメモ】にどのように整理したのかについて説明したものと、適切なものを選択する					5・6 ア				○		○			
	二 (1)	オンラインで交流する場面において、和田さんが話し方を変えた理由として適切なものを選択する	話し言葉と書き言葉の違いに気付くことができるかどうかをみる	5・6 イ							○			○		
	二 (2)	オンラインで交流する場面における和田さんの話し方の工夫として適切なものを選択する	資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる				5・6 ウ					○			○	
	三	オンラインで交流する場面において、【和田さんのメモ】がどのように役に立ったのかを説明したものと、適切なものを選択する	目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる				5・6 ア					○			○	
2	一 (1)	高山さんが文章に書くことを決めるために、どのように考えたのかについて説明したものと、適切なものを選択する	目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる					5・6 ア				○			○	
	一 (2)	【高山さんのメモ】の書き表し方を説明したものと、適切なものを選択する	情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる	5・6 イ							○				○	
	二	【高山さんの文章】の空欄に入る内容を、【高山さんの取材メモ】を基にして書く	目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる					5・6 ウ				○				○
	三 ア	【高山さんの文章】の下線部アを、漢字を使って書き直す(きょうぎ)	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる	5・6 エ								○				○
	三 イ	【高山さんの文章】の下線部イを、漢字を使って書き直す(なげる)	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる	5・6 エ								○				○
3	一	【物語】の一文の中の「かがやいています」の主語として適切なものを選択する	文の中における主語と述語との関係を捉えることができるかどうかをみる	3・4 カ								○			○	
	二 (1)	「オニグモいじん」が「ハエの女の子」にどのように話すか迷っていると考えられるところとして、適切なものを選択する	登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができるかどうかをみる						5・6 イ			○			○	
	二 (2)	【話し合いの様子】で、原さんが【物語】の何に注目したのかについて説明したものと、適切なものを選択する	人物像を具体的に想像することができるかどうかをみる							5・6 エ			○			○
	三	【物語】を読んで、心に残ったところとその理由をまとめて書く	人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができるかどうかをみる							5・6 エ			○			○
	四	【原さんの読書の記録】の空欄に入る内容として適切なものを選択する	日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに関与することに気付くことができるかどうかをみる				5・6 オ					○			○	

問題例

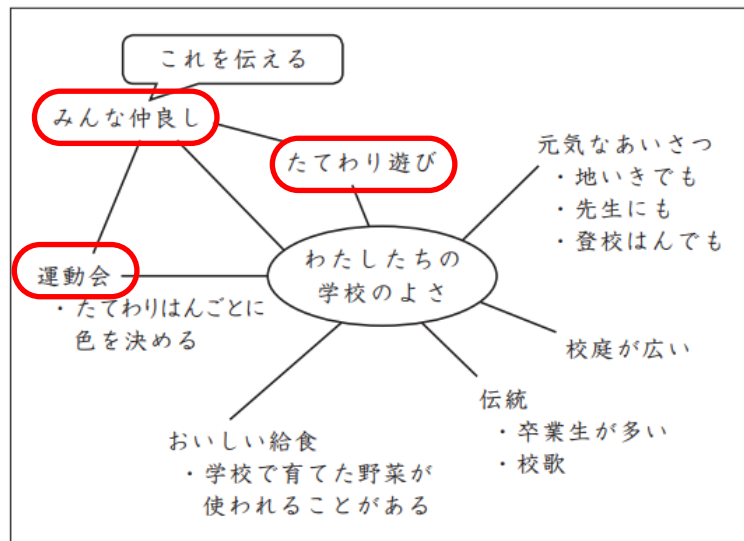
② 高山さんの学級では、学校のよさを伝える文章を書くことにしました。高山さんは、学校のよさを考えながらメモを書き、文章に書くことを決めました。

わたしたちの学校のよさはたくさんあるけれど、どれを伝えようかな。
メモに書き出して、整理してみよう。



目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にする。

【高山さんのメモ】



「たてわり遊び」と「運動会」は、どちらも1年生から6年生までが同じ「たてわりはん」で活動していて、**みんなが仲良し**になる。このことが学校の一番のよさだと思うから、文章に書こう。



高山さん

みんなが仲良しになるというのは、私の意見だから、それを裏付ける事実があるといいな。下級生に「たてわり遊び」の感想をインタビューしてみよう。



条件

- 「たてわり遊び」のよさについて考えたことを書くこと。
- 【高山さんの取材メモ】の下級生に聞いたことから言葉や文を取り上げて書くこと。
- 六十字以上、百字以内にまとめて書くこと。

高山さんは、次の【高山さんの文章】の[]に、【高山さんの取材メモ】をもとにして考えた「たてわり遊び」のよさを書こうとしています。あなたが高山さんなら、[]に入る内容をどのように書きますか。あとの条件に合わせて書きましよう。

指導改善のポイント



自分の考えを裏付ける事実を取り上げているか、事実と意見を区別して書くことができているか、友だちと確認してみよう。

before



「たてわり遊び」のよいところは、ちがう学年の人と仲が良くなることや、心が一つになるところです。やりたいことを聞いたり、ルールをくふうしたりして、相手を思いやる心が育つことも、よさの一つです。

after



解答例

「お兄さんやお姉さんと遊べて楽しかった」という一年生や、「みんなが楽しそうであれしかった」という四年生がいます。このように、「たてわり遊び」のよいところは、学年をこえた交流ができるころだ**と思います**。

【高山さんの文章】

みんな仲良し「たてわりはん」

わたしたちの学校には、1年生から6年生までのメンバーが、同じはんで活動する「たてわりはん」の取り組みがあります。「運動会」や「たてわり遊び」を通して、ちがう学年の人とも仲良くなります。

★運動会について書いた部分

「運動会」は、「たてわりはん」ごとに赤、青、黄の色を決め、3色対こうで行います。上級生が下級生に応えんの仕方を教えたり、下級生も楽しめるように、アキょうぎの作戦を考えたりします。「みんなでつな引きをして楽しい」という2年生や、「下級生といっしょに応えんして熱い気持ちになる」という5年生が**います**。このように、「運動会」のよいところは、みんなの心が一つになるところだ**と思います**。

「たてわり遊び」は、毎月1回、休み時間に「たてわりはん」で遊ぶ活動です。みんなが楽しめるように、6年生が、遊びたいことを下級生に聞いたり、ルールをくふうしたりします。例えば、ドッジボールでは、上級生が遠くからボールをいなげるようにしています。

【高山さんの取材メモ】

「たてわり遊び」について

6年生がくふうしていること

- 遊びたいことを下級生に聞く
- ルールをくふうする

ドッジボール 上級生は遠くからボールをなげる

下級生に聞いたこと

- 1年生 お兄さんやお姉さんと遊べて楽しかった
- 3年生 好きな遊びや新しい友達が増えた
- 4年生 みんなが楽しそうであれしかった



【取材メモ】を使って「たてわり遊び」のよいところを書いたけれど、何か足りない気がするな。友だちにアドバイスをもらおう。

自分の考えたことなどが、客観的な事象に裏付けられたものになっているかどうかを振り返る。

「たてわり遊び」のよさについても、★「運動会」について書いた部分と同じように、下級生に聞いた事実を入れるといいんじゃないかな。



事実と感想、意見とを明確に区別して書くためには、文末表現に注意する。

文末表現にも気を付けるといいね。下級生に聞いたことは、事実だから「～が**います**。」よいところは、自分の意見だから「～**と思います**。」と書くといいね。



○自分の考えが伝わるように、事実と感想、意見とを区別して書くなど、書き表し方を工夫する。

小学校 算数

【全体を通して】

- ・昨年度に続き、「データの活用」領域の問題で、住んでいる町の桜の開花日や桜の開花予想日について調べたことをもとに表やグラフからその特徴を見だし、考察する力が問われた。
- ・記述式の問題において、同じ距離でどれだけの時間がかかったかという速さを比べる場面で、数量の関係に着目し、目的に応じて大きさを比べることについて、表現し判断する力が問われた。
- ・[知識及び技能]に関しては、除数が1より小さい場合の小数の除法の計算や、立体図形の構成要素や性質について問う問題などが9問出題された。
- ・全体として、児童の生活場面を想定した問題が多く出題された。問題場面を把握して、情報を整理し、複数の情報から、何に着目して判断するかについて問う問題が多かった。



【指導改善のポイント】

◇問題場面の数量の関係を捉え、式に表すことができるようにする

- 数量の関係をつかみにくい問題の解決において、問題の文脈に沿って図などに表し、数量の関係を捉え、式に表すことができるようにすることが大切である。
- 文章問題の立式の根拠を図を用いて説明する際、例えば、2つの式に表し、「どちらの式が場面に合っているのか、図に表して説明しよう。」というように、児童一人ひとりが自分の方法で、数や図を用いて自分の考えた式が適切である理由を考える場面を設定する。

◇目的に応じて必要なデータを収集し、表やグラフに表し、身の回りの事象を数学的に考察することができるようにする (⇒P 8～9 参照)

- 興味・関心や問題意識に基づき、必要なデータを収集する場面を設定することが考えられる。そのうえで、分類整理したり、表や適切なグラフに表したりして、統計的に問題を解決できるようにすることが大切である。
- 問題を解決するために、条件や情報を解釈して、数学的に表現し、判断できるようにすることが大切である。



◆自分の考えを深めたり、記述したり表現したりする指導の充実

- 数量や図形、数量の関係を考察して見いだした事実を、確認したり説明したりする場面を設定する。「事実」を記述する際には、説明する対象を明らかにして記述することを求めることが考えられる。
- 論理的に考えを進めて、それを説明したり、判断や考えの正しさを説明したりする場面を設定する。「理由」を記述する際には、「AだからBとなる」のように、Aという理由及びBという結論を明確にして記述することを求めることが考えられる。

○調査問題の一覧

小学校算数

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域					評価の観点			問題形式			
			A 数 と 計 算	B 図 形	C 測 定	C 変 化 と 関 係	D デ ー タ の 活 用	知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度	選 択 式	短 答 式	記 述 式	
1	(1) 問題場面の数量の関係を捉え、持っている折り紙の枚数を求める式を選ぶ	問題場面の数量の関係を捉え、式に表すことができるかどうかをみる	2(2) ア(エ)						○			○		
	(2) はじめに持っていた折り紙の枚数を□枚としたときの、問題場面を表す式を選ぶ	数量の関係を、□を用いた式に表すことができるかどうかをみる	3(7) ア(ア)						○			○		
2	(1) $350 \times 2 = 700$ であることを基に、 350×16 の積の求め方と答えを書く	計算に関して成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる	3(3) イ(ア)						○					○
	(2) 除数が1/10になったときの商の大きさについて、正しいものを選ぶ	除数が小数である場合の除法において、除数と商の大きさの関係について理解しているかどうかをみる	5(3) ア(ア)						○			○		
3	(1) 作成途中の直方体の見取図について、辺として正しいものを選ぶ	直方体の見取図について理解し、かくことができるかどうかをみる		4(2) ア(ア) ア(ウ)					○			○		
	(2) 円柱の展開図について、側面の長方形の横の長さが適切なものを選ぶ	直径の長さ、円周の長さ、円周率の関係について理解しているかどうかをみる		5(1) ア(エ)					○			○		
	(3) 直径22cmのボールがぴったり入る箱の体積を求める式を書く	球の直径の長さや立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことができるかどうかをみる		3(1) ア(ウ) イ(ア) 5(4) ア(イ) イ(ア)					○					○
	(4) 五角柱の面の数を書き、そのわけを底面と側面に着目して書く	角柱の底面や側面に着目し、五角柱の面の数とその理由を言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる		5(2) ア(ア) イ(ア)					○					○
4	(1) $540 \div 0.6$ を計算する	除数が小数である場合の除法の計算をすることができるかどうかをみる	5(3) ア(イ)						○			○		
	(2) 3分間で180m歩くことを基に、1800mを歩くのにかかる時間を書く	速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察できるかどうかをみる			5(1) イ(ア) 5(2) イ(ア)				○			○		
	(3) 家から学校までの道のりが等しく、かかった時間が異なる二人の速さについて、どちらが速いかを判断し、そのわけを書く	道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる			5(2) ア(ア) イ(ア)				○					○
	(4) 家から図書館までの自転車の速さが分速何mかを書く	速さの意味について理解しているかどうかをみる			5(2) ア(ア)				○			○		
5	(1) 円グラフから、2023年の桜の開花日について、4月の割合を読み取って書く	円グラフの特徴を理解し、割合を読み取ることができるかどうかをみる					5(1) ア(ア)	○				○		
	(2) 示されたデータから、1960年代のC市について、開花日が3月だった年と4月だった年がそれぞれ何回あったかを読み取り、表に入る数を書く	簡単な二次元の表を読み取り、必要なデータを取り出して、落ちや重なりがないように分類整理することができるかどうかをみる					3(1) ア(ア)	○				○		
	(3) 折れ線グラフから、開花日の月について、3月の回数と4月の回数の違いが最も大きい年代を読み取り、その年代について3月の回数と4月の回数の違いを書く	折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる					3(1) イ(ア) 4(1) ア(イ)	○						○
	(4) 示された桜の開花予想日の求め方を基に、開花予想日を求める式を選び、開花予想日を書く	示された情報を基に、表から必要な数値を読み取って式に表し、基準値を超えるかどうかを判断できるかどうかをみる	2(1) イ(ア)				3(1) ア(ア)	○				○		

出題の趣旨

日常生活の問題を解決するために、目的に応じて収集したデータを分類整理し、表やグラフを用いて、身の回りの事象について考察できるかどうかをみる。



付きたい力の明確化

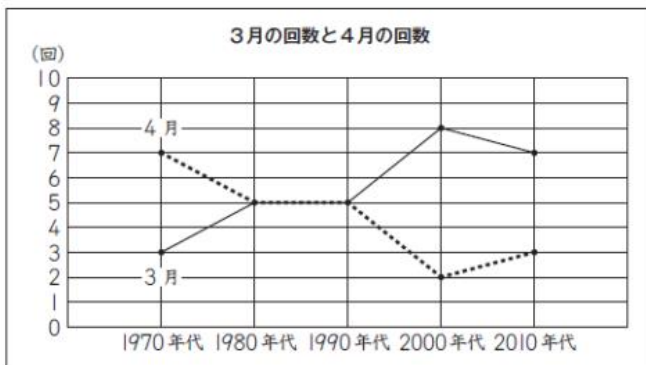
折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述できる。

算数 5 身の回りの事象を目的に応じて表やグラフを用いて考察すること (桜の開花予想)

5 こうたさんは、桜の開花日について興味をもちました。桜の開花日とは、各地で基準となっている桜の木で5～6輪以上の花が開いた状態となった最初の日のことです。

(3) こうたさんは、1970年代から2010年代について、C市の桜の開花日の月を調べました。すると、1970年代以降は、開花日の月が3月と4月のどちらかであることがわかりました。

そこで、開花日の月について、各年代の3月の回数と4月の回数を、下のように折れ線グラフに表しました。



こうたさんたちは、左の折れ線グラフをもとに、気づいたことについて話し合っています。



1970年代は、3月の回数より4月の回数のほうが4回多いですね。



3月の回数と4月の回数が同じ年代がありますね。



3月の回数と4月の回数のちがいが大きい年代がありますね。

左の折れ線グラフで、3月の回数と4月の回数のちがいが最も大きい年代はいつですか。また、その年代について、3月の回数と4月の回数のちがいは何回ですか。

ちがいが最も大きい年代と、その年代について、3月の回数と4月の回数が何回ちがうかを、言葉と数を使って書きましょう。

正答 5 (3)

(例)

3月の回数と4月の回数の違いが最も大きい年代は、2000年代で、2000年代の3月の回数と4月の回数の違いは6回です。

5 (3)



開花日の月について、インターネットで調べてみよう。

折れ線グラフから気づいたことを話し合いましょう。

「桜の開花日が最近では3月が多いと感じている」と聞いたけど、本当かな。



① 必要な情報を確かに取り出す

② 情報を比較し、関連付けて整理する



「3月と4月のどちらで開花日が多かったか」などの問題意識に基づいて、過去や現在のデータを収集する。

折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて説明する。

(4) こうたさんは、3月19日の卒業式の日までに、桜が開花してほしいと思っています。

桜がいつ開花するか知りたいと思い、桜の開花予想日について調べたところ、下のような桜の開花予想日の求め方を見つけました。

桜の開花予想日の求め方

- ① 2月1日から、毎日の最高気温の数値をたしていく。
- ② 毎日の最高気温の数値をたした答えが、初めて600以上になったその日を桜の開花予想日とする。



今日は3月16日です。桜はまだ開花していません。

桜の開花予想日の求め方の①のように計算すると、3月15日までの最高気温の数値をたした答えは549でした。

3月16日からの最高気温の予報は、下の表のとおりです。

3月16日から3月19日までの最高気温の予報

日にち	3月16日	3月17日	3月18日	3月19日
最高気温(度)	21	20	15	14

こうたさんは、3月16日以降は予報どおりの最高気温になるとして、桜の開花予想日の求め方を使って、桜の開花予想日を求めました。
桜の開花予想日について、次のようにまとめることができます。

最高気温の数値をたしていった答えが、初めて600以上になる式は、 ㊸ だから、
桜の開花予想日は3月 ㊸ 日です。

上の㊸に入る式を、下の1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。また、上の㊸に入る数を書きましょう。

- 1 $549 + 21$
- 2 $549 + 21 + 20$
- 3 $549 + 21 + 20 + 15$
- 4 $549 + 21 + 20 + 15 + 14$

正答 5 (4)

㊸...3

㊸...18

5 (4)



桜はいつ開花するの
だろう？
自分たち
で求める
ことができる
のかな？

「桜の開花予想日の求め方」の情報を基にすると、開花予想日を求められることが分かったよ。



算数を使うと未来を予想することができましたね。



式に表して計算すると、判断した理由がわかりやすいね。

①必要な情報を確実に取り出す

②情報を比較し、関連付けて整理する

③自分なりに解決し、知識を再構築する

示された情報を基に、表から必要な数値を読み取る。

毎日の最高気温の数値をたしていった答えが、基準値の600を超えるかどうかを判断する。

数値化して式に表すことで、身の回りの問題が解決できたことを振り返る。

【全体を通して】

- ・昨年度に続き、国語科で育成を目指す資質・能力をより高める重要な活動の一つである「読書」が題材として扱われている。今年度は、インターネットの「フィルターバブル現象」と関連付けて「本の選び方」について自分の考えを述べる問題が出された。
- ・記述式の問題において、他者との対話を通して自分の考えを具体的に述べたり、文章から必要な情報を取り出して要約したり、ノートにまとめた構想を手がかりに物語の一部を創作してその表現の効果について説明したりする力が問われた。
- ・〔知識及び技能〕に関しては、文法や漢字の書き取りについては大問の中の小問として一体的に問われ、「伝統的な言語文化」「表現の技法」「書写」は大問として出題された。行書の特徴の理解は、令和4年度調査で課題がみられたことから、「行書の基礎的な書き方（「点画の連続」や「点画の略」、「筆順の変化」など）を理解して書くこと」が継続して指導できているかをみるものとなっている。
- ・全体として、言語活動の設定において、資質・能力を育成するために効果的なものであること、生徒一人ひとりが目的意識をもって取り組めるものであることが重要であるというメッセージが感じられる問題であった。



【指導改善のポイント】

◇単元でねらいとする資質・能力を効果的に育成する言語活動や学習課題の設定

- 生徒の実態や興味・関心を踏まえた言語活動や学習課題を設定し、生徒が単元を通して、目的意識や見通しをもち続けられるようにする。
- 生徒自身が既習事項を想起し、国語科および他教科等における学びをつなげて学習課題を解決できるように指導する。

◆自分の考えを深め、記述したり表現したりする指導の充実（➡P12～13参照）

- 他者との対話や複数資料から、自分の考えを広げ深めたり、新しい考えを生み出したりする学習活動を設定する。
- 自分の考えを適切に言語化できるよう、「知識及び技能」を「思考力、判断力、表現力等」と相互に関連付けて一体的に指導する。その際、生徒の学びの状況を的確に把握し、必要に応じて反復的に学習できるようにする。

◇多様な学び方が可能となる環境を整える

- 生徒が自ら学習の計画を立てたり、学習方法を選択したりして取り組むことや、まとめや振り返りの時間に学んだことを自分の言葉で整理することを通して、自分の学びを調整する力を身に付けられるようにする。
- 学校図書館を活用し、図書や新聞等の資料を用いた学習や読書活動の充実を図る。また、ICTについては、教育活動において効果的な学びが期待できる場面を捉え、計画的に活用する。



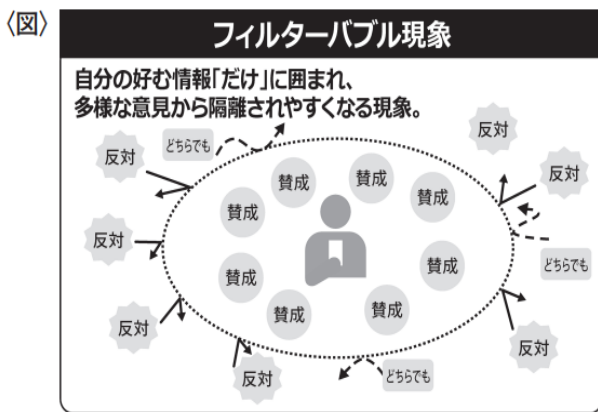
○調査問題の一覧

中学校国語

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の内容						評価の観点			問題形式		
			知識及び技能			思考力、判断力、表現力等			知識	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式
			(1) 読書の特色を捉える事項	(2) 情報する扱い方	(3) 我が国の言語文化	A 話すこと・聞くこと	B 書くこと	C 読むこと						
1	一 話し合いの中の発言について説明したものとして適切なものを選択する	必要に応じて質問しながら話の内容を捉えることができるかどうかをみる				1 エ				○		○		
	二 話し合いの中で発言する際に指し示している資料の部分として適切な部分を○で囲む	資料を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように話すことができるかどうかをみる				2 ウ				○			○	
	三 話し合いの中の発言について説明したものとして適切なものを選択する	意見と根拠など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる		1 ア						○			○	
	四 話し合いの話題や発言を踏まえ、「これからどのように本を選びたいか」について自分の考えを書く	話し合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめることができるかどうかをみる				1 オ				○				○
2	一 本文中の図の役割を説明したものとして適切なものを選択する	文章と図とを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈することができるかどうかをみる								2 ウ		○		○
	二 本文中の情報と情報との関係を説明したものとして適切なものを選択する	具体と抽象など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる		2 ア					○			○		○
	三 本文中に示されている二つの例をまとめた文の空欄に入る言葉として適切なものをそれぞれ選択する	文章の全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係を捉えることができるかどうかをみる								2 ア		○		○
	四 本文に書かれていることを理解するために、着目する内容を決めて要約する	目的に応じて必要な情報に着目して要約することができるかどうかをみる								1 ウ		○		
3	一 物語を書くために集めた材料を取捨選択した意図を説明したものとして適切なものを選択する	目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる							1 ア		○		○	
	二 物語の下書きについて、文の中の語句の位置を直した意図を説明したものとして適切なものを選択する	文の成分の順序や照応について理解しているかどうかをみる	2 オ						○			○		○
	三 漢字を書く（みちたりた）	文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる	2 ウ						○				○	
	四 表現を工夫して物語の最後の場面を書き、工夫した表現の効果を説明する	表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができるかどうかをみる							2 ウ		○			
4	一 短歌に用いられている表現の技法を説明したものとして適切なものを選択する	表現の技法について理解しているかどうかをみる	1 オ						○			○		○
	二 短歌に詠まれている情景の時間帯の違いを捉え、時間の流れに沿って短歌の順番を並べ替える	短歌の内容について、描写を基に捉えることができるかどうかをみる							1 イ		○			○
	三 行書の特徴を踏まえた書き方について説明したものとして適切なものを選択する	行書の特徴を理解しているかどうかをみる			1 エ (イ)				○			○		

問題例

① 山岡さんたちは、国語の時間に、「フィルターバブル現象の資料」をもとに、グループで話題を決めて話し合っています。



(文部科学省ウェブページによる。一部改変。)

〈解説〉

インターネットで検索したり閲覧したりした履歴が、使用した通信機器などに記憶され、解析されることで、その利用者の好む情報が優先的に表示されるようになる。一方で、好まないと判断された情報は、はじかれてしまう。このような、情報の偏りが生じたり多様な意見に触れにくくなったりする状態のことを「フィルターバブル現象」という。

例えば、野球についての検索を多くしていると、次第に野球に関する情報が優先的に表示されるようになる。

皆さんは、【フィルターバブル現象の資料】にあるような経験がありますか。



山岡さん

私の兄は、時々、インターネットで検索して本を買っているのですが、趣味にしている将棋に関する本の表示が多くなったと言っていました。



今井さん

インターネットを利用して本を選ぶと、フィルターバブル現象の影響を受ける可能性がありそうです。では、話題を「フィルターバブル現象と本の選び方」にして話し合ってみませんか。

皆さんは、これからどのように本を選ぼうと思いますか。



山岡さん

【話し合いの一部】の山岡さんの最後の発言を受けて、あなたならどのような考えを述べますか。次の条件1と条件2にしたがって、実際に話すように書きなさい。

条件1

フィルターバブル現象の特徴について取り上げながら、これからどのように本を選びたいかを具体的に書くこと。

条件2

【話し合いの一部】の誰の発言と結び付くのが分かるように書くこと。



before



フィルターバブル現象によって、過去に購入した本の傾向から、興味がありそうな本が表示されるということは、本を探すのに時間がからなくて、とても便利だ。

after

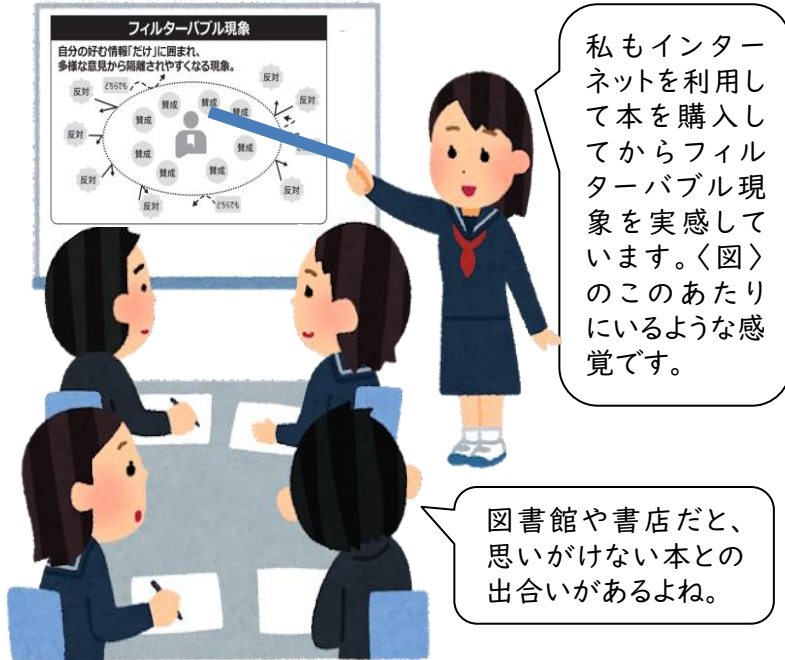


解答例

今井さんが言うように、フィルターバブル現象は好みに合った本を選んで示してくれるという便利な面もあるが、藤田さんが言うように、それ以外の様々な本に出合いにくくなるため、情報が偏ってしまう恐れもある。興味や関心を広げるためには、異なる価値観に触れることも大切である。だからこそ、インターネットと図書館や書店を、場面に応じてうまく使い分け、本を選んでいきたい。

自分の考えを広げ深め、
新しい考えを生み出す

他者との対話



複数の資料
(インターネット、本、新聞等)



〔知識及び技能〕の「情報の扱い方に関する事項」と相互に関連付ける

自分の考えと結び付く情報はどれだろう。

集めた情報の比較や分類、関係付けをして、整理してみよう。



○他者との対話や複数資料の情報を踏まえて、「これからどのように本を選ぶか」について自分の考えをまとめる。



中学校 数学

【全体を通して】

- ・昨年度に続き、複数の箱ひげ図の比較から分布の特徴を読み取り説明する問題や、箱ひげ図から四分位範囲を読み取る問題など、学習指導要領の改訂で新たに指導する内容となったことに関する問題が出題された。
- ・記述式の問題において、灯油を使い切るまでのストーブの使用時間について、1時間あたりの灯油使用量と灯油を使い切るまでの使用時間との関係を説明する問題や、2つの正三角形を並べたときにできる図形の性質について説明する問題など、事象を数学的に解釈し、根拠を明らかにして数学的に説明したり、表現したりする力が問われた。
- ・〔知識及び技能〕に関しては、連続する2つの偶数を文字を用いた式で表す問題や、等式を変形する問題、回転移動した後の図形の頂点を選ぶ問題などが出題された。
- ・全体として、資質・能力を育成するために、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に身に付けるとともに数学の問題を見いだすことや、その問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察することを習慣化することが大切であると感じられる問題であった。



【指導改善のポイント】

◇数学的活動の楽しさを実感できる授業・単元の計画

- 基礎的な知識や技能の定着を図るとともに、それらを基にして統合的・発展的に考える活動を設定する。
- 事象を理想化したり抽象化したりして、事象に潜む法則を見つけたり、操作、実験などを通して数や図形の性質を見だし、見いだした性質を発展させたりする活動などの機会を設ける。その過程で様々な工夫、驚き、感動や考えることの楽しさを味わえるように指導する。

◆自分の考えを深め、記述したり表現したりする指導の充実

- 問題を解決する際、他者と協働して方法や手順を的確に伝え合ったり、記述したりする場面を設定する。
- 事柄が成り立つ理由を説明する際には、説明の対象となる成り立つ事柄を明確にした上で、その根拠を指摘するよう指導する。（⇒P16参照）



◇主体的・対話的で深い学びにつながるICTの活用（⇒P17参照）

- 具体を通して数学の内容を確実に理解し、数学的に考える力を身に付ける学習では、ICTを利用する場面を適切に設定する。
- 「図形」や「データの活用」の領域では、一人一台端末を使用して各自で図形の性質やデータの特徴を見いだしたり、自分が見いだした性質をペアやグループ活動を通して説明したりする場面を設定する。



○調査問題の一覧

中学校数学

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点			問題形式		
			数 と 式	図 形	関 数	デ ー タ の 活 用	知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度	選 択 式	短 答 式	記 述 式
1	nを整数とすると、連続する二つの偶数を、それぞれnを用いた式で表す	連続する二つの偶数を、文字を用いた式で表すことができるかどうかをみる	2(1) ア (イ)				○				○	
2	等式 $6x + 2y = 1$ をyについて解く	等式を目的に応じて変形することができるかどうかをみる	2(1) ア (エ)				○				○	
3	正方形が回転移動したとき、回転前の正方形の頂点に対応する頂点を、回転後の正方形から選ぶ	回転移動について理解しているかどうかをみる		1(1) ア (イ)			○				○	
4	一次関数 $y = ax + b$ について、 $a = 1$ 、 $b = 1$ のときのグラフに対して、bの値を変えずに、aの値を大きくしたときのグラフを選ぶ	一次関数について、式とグラフの特徴を関連付けて理解しているかどうかをみる			2(1) ア (ア)		○				○	
5	2枚の10円硬貨を同時に投げるとき、2枚とも裏が出る確率を求める	簡単な場合について、確率を求めることができるかどうかをみる				2(2) ア (イ)	○				○	
6	(1) 正三角形の各頂点に○を、各辺に□をかけた図において、○に3、-5を入れるとき、その和である□に入る整数を求める	問題場面における考察の対象を明確に捉え、正の数と負の数の加法の計算ができるかどうかをみる	1(1) ア (イ)				○				○	
	(2) 正三角形の各頂点に○を、各辺に□をかけた図において、□に入る整数の和が○に入れた整数の和の2倍になることの説明を完成する	目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる	2(1) イ (イ)				○				○	
	(3) 正四面体の各頂点に○を、各辺に□をかけた図において、○に入れた整数の和と□に入る整数の和について予想できることを説明する	統合的・発展的に考え、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる	2(1) イ (イ)				○				○	
7	(1) 障害物からの距離が10cmより小さいことを感知して止まる設定にした車型ロボットについて実験した結果を基に、10cmの位置から進んだ距離の最頻値を求める	与えられたデータから最頻値を求めることができるかどうかをみる				小6 (1) ア (ア)	○				○	
	(2) 車型ロボットについて「速さが段階1から段階5まで、だんだん速くなるにつれて、10cmの位置から進んだ距離が長くなる傾向にある」と主張することができる理由を、五つの箱ひげ図を比較して説明する	複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる				2(1) イ (ア)	○				○	
	(3) 車型ロボットについて、障害物からの距離の設定を変えて調べたデータの分布から、四分位範囲について読み取れることとして正しいものを選ぶ	複数の集団のデータの分布から、四分位範囲を比較することができるかどうかをみる				2(1) ア (ア)	○				○	
8	(1) ストープの使用時間と灯油の残量の関係を表すグラフとy軸との交点Pのy座標の値が表すものを選ぶ	二つのグラフにおけるy軸との交点について、事象に即して解釈することができるかどうかをみる			2(1) ア (ア)		○				○	
	(2) 18Lの灯油を使いきるまでの「強」の場合と「弱」の場合のストープの使用時間の違いがおよそ何時間になるかを求める方法を、式やグラフを用いて説明する	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる			2(1) イ (イ)		○				○	
	(3) 結衣さんがかけたグラフから、18Lの灯油を使い切るような「強」と「弱」のストープの設定の組み合わせとその使用時間を書く	グラフの傾きや交点の意味を事象に即して解釈することができるかどうかをみる			2(1) ア (ア)		○				○	
9	(1) 点Cを線分AB上にとり、線分ABについて同じ側に正三角形PACとQCBをつくるとき、 $AQ = PB$ であることを、三角形の合同を基にして証明する	筋道を立てて考え、証明することができるかどうかをみる		2(2) イ (イ)			○				○	
	(2) 点Cを線分AB上にとり、線分ABについて同じ側に正三角形PACとQCBをつくるとき、 $\angle AQC$ と $\angle BPC$ の大きさについていえることの説明として正しいものを選ぶ	事象を角の大きさに着目して観察し、問題解決の過程や結果を振り返り、新たな性質を見いだすことができるかどうかをみる			2(2) ア (イ) ア (ア)		○				○	

7 データの傾向を読み取り、批判的に考察し判断すること(箱ひげ図)

出題の趣旨

- 不確定な事象についてデータに基づいて考察する場面において、次のことができるかどうかをみる。
 - ・表やグラフなどを活用して、数学的に処理すること
 - ・事象を数学的に解釈し、その根拠を数学的な表現を用いて説明すること
 - ・数学的に表現したことを事象に即して解釈すること

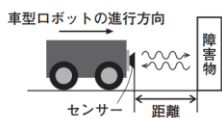
🔍 付けたい力の明確化

複数のデータの分布の傾向について、データを比較して読み取ったり、数学的な表現を用いて説明したりすることができる。

7 海斗さんと咲希さんは、安全性を高めるためにセンサーで障害物を感知して止まる自動車があることを知り、興味をもちました。そこで、車型ロボット用のプログラムによって走らせることのできる車型ロボットを使って実験をすることにしました。

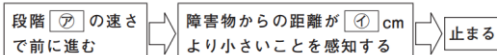
車型ロボットの説明

- 障害物からの距離を測定できるセンサーがついている。

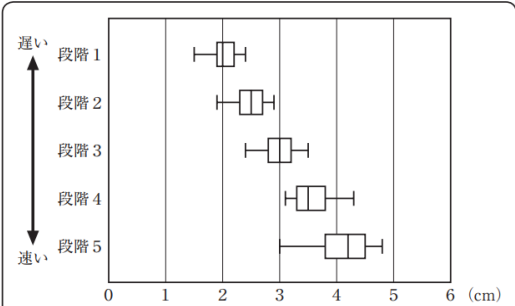


- プログラムの ②、④ に値を入れることによって、車型ロボットの速さと、障害物からの距離を設定し、車型ロボットの動きを止めることができる。
- ② は、速さとして最も遅い段階1から最も速い段階5まで設定できる。
- ④ は、距離として3cmから500cmまで設定できる。

プログラム



10 cm の位置から進んだ距離の分布



	10 cm の位置から進んだ距離 (cm)				
	最小値	第1四分位数	中央値	第3四分位数	最大値
段階1	1.5	1.9	2.0	2.2	2.4
段階2	1.9	2.3	2.5	2.7	2.9
段階3	2.4	2.8	3.0	3.2	3.5
段階4	3.1	3.3	3.5	3.8	4.3
段階5	3.0	3.8	4.2	4.5	4.8

(2) 咲希さんは、車型ロボットの速さを変えたときに、10 cm の位置から進んだ距離がどうなるか調べることにしました。そこで、速さを段階1から段階5まで変えて、10 cm の位置から進んだ距離をそれぞれ20回ずつ調べ、データを集めました。そして、データの分布の傾向を比較するために箱ひげ図に表しました。

前ページの10 cm の位置から進んだ距離の分布から、「速さが段階1から段階5まで、だんだん速くなるにつれて、10 cm の位置から進んだ距離が長くなる傾向にある」と主張することができます。そのように主張することができる理由を、10 cm の位置から進んだ距離の分布の5つの箱ひげ図を比較して説明します。下の説明を完成しなさい。

正答例

- (2) ・速さが段階1から段階5まで、だんだん速くなるにつれて、箱ひげ図の箱の位置が右側にずれていっている。
 ・速さが段階1から段階5まで、だんだん速くなるにつれて、第1四分位数と第3四分位数が大きくなっていく。

説明

したがって、速さが段階1から段階5まで、だんだん速くなるにつれて、10 cm の位置から進んだ距離が長くなる傾向にある。

① 必要な情報を確かに取り出す

- ・箱ひげ図の箱の位置が右側にずれていっていること
- ・第1四分位数と第3四分位数がだんだん大きくなっていくこと



② 情報を比較し、関連付けて整理する

①の情報と「速さが段階1から段階5まで速くなるにつれて、10cm の位置から進んだ距離が長くなる傾向にあること」を関連付けて説明する。



③ 自分なりに解決し、知識を再構築する

速さを変えずに障害物からの距離を変えた場合にはどうなるか、②の説明と比較しながらその特徴を説明する。



主張するためには、箱ひげ図からどのような特徴を読み取ればいいのか…。

5つの箱ひげ図を比較し、それぞれの箱ひげ図の形や位置に注目してみましょう。



9 筋道を立てて証明し、図形を判断すること(2つの正三角形)

出題の趣旨

- 図形の性質を考察する場面において、次のことができるかどうかをみる。
 - ・筋道を立てて考えること
 - ・事柄が成り立つ理由を数学的に説明すること
 - ・数学的な結果を事象に即して解釈すること

付けたい力の明確化

条件を変えた場合に図形の関係がどのようになるか、証明を振り返って考察することができる。

9 線分ABがあります。線分AB上に点Cをとり、AC、CBをそれぞれ1辺とする正三角形PAC、QCBを、線分ABについて同じ側につくります。そして、点Aと点Q、点Bと点Pを結びます。ただし、点Cは点A、Bと重ならないものとしします。
桃子さんは次の図1のように点Cをとり、健太さんは次の図2のように線分ABの midpoint に点Cをとりました。

図1

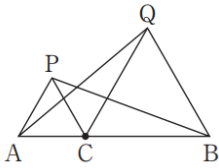
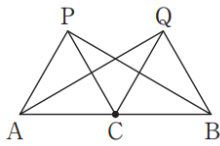
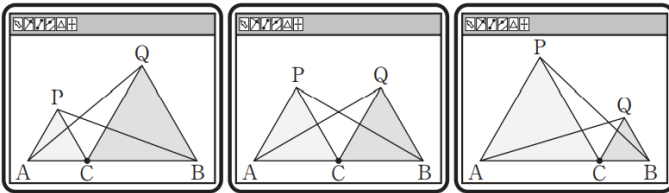


図2

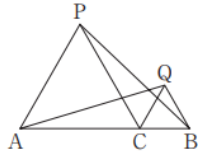


二人は図1と図2を観察し、線分や角についていえることがないか気になりました。そこで、コンピュータを使って点Cを動かしながら調べました。

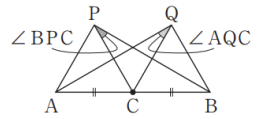


次の(1)、(2)の各問いに答えなさい。

(1) 桃子さんは、コンピュータを使って調べたことから、点Cが線分AB上のどこにあっても、 $AQ = PB$ になると予想しました。

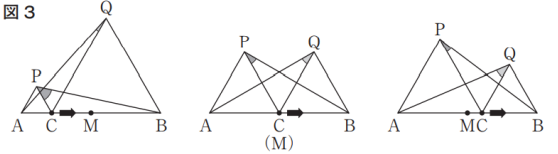


(2) 健太さんは、線分ABの midpoint に点Cをとった場合に $\angle AQC$ と $\angle BPC$ が等しく見えたことから、他の場合にはどうなるか気になりました。



そこで、次の図3のように、線分ABの midpoint をMとして、点Aから点Bの方向へ点Cを動かした場合に $\angle AQC$ と $\angle BPC$ の大きさがどうなるかを調べ、下のようにとまとめました。

図3



調べたこと

- 点Cが点Aから点Bに近づくにつれて、 $\angle AQC$ は大きくなり、 $\angle BPC$ は小さくなる。
- 点Cが線分ABの midpoint のとき、 $\angle AQC$ と $\angle BPC$ は等しく、どちらも 30° である。

上の ①、② のそれぞれに当てはまるものを、下のアからエまでの中から1つずつ選びなさい。

- ア 60° より大きい
- イ 60° より小さい
- ウ 60° になる
- エ 60° より大きいことも小さいこともある

健太さんは、前ページの調べたことから、 $\angle AQC$ と $\angle BPC$ の和について何かいえることがないか考えています。

このとき、 $\angle AQC$ と $\angle BPC$ の和について、次のことがいえます。

- ◎ 点Cが点Aと midpoint Mの間にあるとき、 $\angle AQC$ と $\angle BPC$ の和は ①。
- ◎ 点Cが midpoint Mと点Bの間にあるとき、 $\angle AQC$ と $\angle BPC$ の和は ②。

正答例

(2) ① ウ ② ウ

生徒の主体的な活動を通して、問題発見の過程を大切にします。

図1と図2を見て、どのようなことがわかりますか。



線分や角について何か言えないかな……。タブレットで実際に点Cの位置を変えて調べてみよう。



図形は変わるけれど、点Cが線分AB上のどこにあっても、AQとPBの長さはいつも等しいと言えそうだよ。



③自分なりに解決し、知識を再構築する

図3のように、ICTを活用しながら条件を変えたときに、成り立つ性質を見だし、(1)で証明したことを振り返り考察する。

タブレットで点Cを動かすと、 $\angle AQC$ と $\angle BPC$ の大きさは変わるけれど、2つの角の和は同じになるんじゃないかな……。

(1)の証明を根拠にして説明できないか考えてみましょう。



児童生徒質問調査・学校質問調査の項目のポイントについて

(文部科学省資料より)

(1) 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況に関する項目

【児童生徒】問 29～37 【学校】問 25～35

学習指導要領の趣旨を踏まえた教育活動の取組状況等を明らかにするため、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する項目を継続する。また、個別最適な学び・協働的な学びに関する項目を充実させ、各教科の正答率との関係などについて更なる分析を行う。

(2) ICT を活用した学習状況に関する項目

【児童生徒】問 27・28 【学校】(小)問 53～66、(中)問 57～70

ICT を活用した学習状況について、児童生徒がどのような点に有用性を感じているかなど、よりきめ細かに把握できるよう項目を充実させる。

(3) 学習に対する興味・関心や授業の理解度等に関する項目

①国語、算数・数学

【児童生徒】国語：問 42～49 算数・数学：問 50～57

【学校】国語：問 41～44 算数・数学：問 45～48

国語、算数・数学の学習状況について、教科調査の結果に加えて質問調査の結果も合わせて複合的に分析できるよう、各教科の授業において児童生徒がどのように学んでいるかに関する項目を追加する。

②理科、英語

【児童生徒】理科：問 58～60 英語：(小)問 61～63、(中)61～65

【学校】理科：問 49～51 英語：(小)問 52、(中)問 52～56

理科、英語に関する項目は、教科調査が実施される年度のみとしてきたが、過去の調査で明らかになった課題を踏まえ、それらがどのように変化しているかをフォローアップできる項目を追加する。

(4) 学校運営に関する状況、教職員の資質向上に関する状況に関する項目

【学校】問 20～24

教育振興基本計画において、「子供たちのウェルビーイングを高めるためには、教師のウェルビーイングを確保することが必要」とされている。このため、子供たちのウェルビーイングとの関係等の分析を見据えながら、教職員間の情報共有の状況や学校組織の心理的安全性の確保などの観点からの項目を追加する。

児童生徒質問調査

○全体を通して

〔質問数〕 小学校：63 項目（昨年度より4問増）
中学校：65 項目（昨年度より7問減）

〔特記事項〕

- ・自分の生活での意識を尋ねる項目について、携帯電話やスマートフォン、コンピュータの使い方や健康に過ごすためについて尋ねる項目が加えられた。
- ・部活動について尋ねる項目が削除され、放課後や週末の過ごし方について尋ねる項目が加えられた。
- ・「読書は好きですか」や読書時間、学校図書館等の活用頻度を尋ねる項目が削除され、読書をする環境についての項目のみとなった。

○今年度新たに加えられた項目

◆ 令和4年度にも尋ねられた項目

R6番号		質問項目
小学校	中学校	
生活状況等について		
5		普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含みます。）をしますか。◆
6		普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで SNS や動画視聴などをしますか（携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除きます）。◆
7		携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか。◆
8		健康に過ごすため、授業で学習したことや保健室の先生などから教えられたことを、普段の生活に役立てていますか。
学習習慣や学習環境等について		
20		分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。
地域や社会に関わる活動の状況等について		
26		放課後や週末に何をして過ごすことが多いですか。◆
ICTを活用した学習状況について		
あなたは、学習の中で PC・タブレットなどの ICT 機器を活用することをどのように感じていますか。次のことがあなたにどれくらい当てはまるか、5年生〔1、2年生〕のときの学習のようすを振り返り、最も近い番号を1つ選んでください。		
28-(1)		ICT 機器を活用することで、自分のペースで理解しながら学習を進めることができる
28-(2)		ICT 機器を活用することで、分からないことがあった時に、すぐ調べることができる

28-(3)	ICT 機器を活用することで、楽しみながら学習を進めることができる
28-(4)	画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよく分かる
28-(5)	ICT 機器を活用することで、自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる
28-(6)	ICT 機器を活用することで、友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる
28-(7)	ICT 機器を活用することで、友達と協力しながら学習を進めることができる
5年生までに[1,2年生のときに]受けた授業等について	
35	授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思う
37	授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にしてお互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる
教科に関する項目について	
46	国語の授業で、違う点や似ている点を意識したり、図で示したりしながら、情報を整理している
47	国語の授業で、目的に応じて、話すために集めた材料を、いくつかのまとまりに分けたり結び付けたりしながら、伝える内容を考えている
48	国語の授業で、目的に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように工夫して文章を書いている
	46 国語の授業で話を聞いたり文章を読んだりするときに、具体的な情報と抽象的な情報との関係を捉えて理解している
	47 国語の授業で、話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめている
	48 国語の授業で、自分の考えが伝わるように、表現の効果を考えて文章を書いている
	49 国語の授業で、説明的な文章を読み、目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈している
54	算数[数学]の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考える◆
55	算数[数学]の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える◆
56	算数[数学]の問題が解けたとき、別の解き方を考えようとしている
57	算数[数学]の授業で学習したことを、今後の学習で活用しようとしている
58	理科の勉強は好きだ◆
59	自然の中や日常生活、理科の授業において、理科に関する疑問を持ったり問題を見いだしたりすることがある

60	理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てている◆
63	英語の授業の内容はよく分かる

○令和5年度から文言が変更された項目(※下線部は変更箇所)

R6番号		質 問 項 目
小学校	中学校	
33		学級の友達〔生徒〕との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、 <u>新たな考え方に気付いたりすることができている*</u>

* 令和5年度は「広げたりすることができていますか」

学校質問調査

○全体を通して

〔質問数〕 小学校：76問（昨年度より5問減）
中学校：80問（昨年度より9問減）

〔特記事項〕

- ・児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器の活用について、「希望する不登校児童〔生徒〕に対する授業配信」の活用を尋ねる項目が加えられた。
- ・学習評価の項目では、「創意工夫の中で、学習評価の妥当性や信頼性が高められるよう、評価規準や評価方法の教員間での明確化・共有化や、学年会や教科等部会等の校内組織の活用等、組織的かつ計画的な取組をする」という内容となった。
- ・家庭学習について、児童生徒が主体的に取り組む活動を行っているかどうかを尋ねる内容となった。
- ・新型コロナウイルス感染症に関する項目が削除された。

質問項目の種類	項目数		新たに追加あり
	R6		
	小学校	中学校	
○ 学校規模等	6	6	
○ 生徒指導等	2	2	○
○ 学校運営に関する状況／教職員の資質向上に関する状況	16	16	○
○ 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況	11	11	○
○ 総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科 道徳の指導方法	4	4	
○ 学習評価	1	1	○
○ 国語科の指導方法	4	4	○
○ 算数〔数学〕科の指導方法	4	4	○
○ 理科の指導方法	3	3	
○ 英語科の指導方法	1	5	
○ ICTを活用した学習状況	14	14	○
○ 特別支援教育	1	1	
○ 小学校教育と中学校教育の連携	1	1	
○ 家庭や地域との連携等	2	2	
○ 家庭学習	3	3	○
○ 調査結果の活用	3	3	
合 計	76	80	

○今年度新たに加えられた項目

◆ 令和4年度にも尋ねられた項目

R6番号		質問項目
小学校	中学校	
生徒指導等		
8		スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーによる教育相談に関して、児童〔生徒〕が相談したい時に相談できる体制となっていますか。
学習運営に関する状況／教職員の資質向上に関する状況		
12		指導計画の作成に当たっては、各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列している◆
20		学級運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、改善に向けて学校として組織的に取り組んでいる
21		各児童〔生徒〕の様子を、担任や副担任だけでなく、可能な限り多くの教職員で見取り、情報交換をしている
22		今までの取組をそのまま踏襲するのではなく、新しい取組を導入したり、提案をしたりしてくる教職員が多い
23		教職員が困っているとき、互いに相談できる雰囲気がある
24		ストレスチェックの結果の活用や研修など、教職員自身の心身の健康状態につき振り返り対処する機会が提供されている
主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況		
28		授業や学校生活では、児童〔生徒〕が、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる
29		授業では、児童〔生徒〕が自分で学ぶ内容を決め、計画を立てて学ぶ活動を行っている
32		授業において、児童〔生徒〕の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をする◆
学習評価		
40		創意工夫の中で学習評価の妥当性や信頼性が高められるよう、評価規準や評価方法の教員間での明確化・共有化や、学年会や教科等部会等の校内組織の活用等、組織的かつ計画的な取組をする◆
国語科の指導方法		
41		情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるような指導
42		目的や意図、場面の状況に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、話す内容を検討することができるような指導
43		目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書くことができるような指導
	41	話を聞いたり文章を読んだりするときに、具体的な情報と抽象的な情報との関係を捉えて理解することができるような指導
	42	話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結ぶ付けて考えをまとめることができるような指導

	43	自分の考えが伝わるように、表現の効果を考えて文章を書く指導
	44	説明的な文章を読み、目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈することができるような指導
算数[数学]科の指導方法		
	47	問題の答えを求めさせるだけではなく、どのように考え、その答えになったのかなどについて、児童[生徒]に筋道を立てて説明させるような授業
	48	児童[生徒]がどのようなことにつまずくのかを想定した指導
ICTを活用した学習状況		
65	69	児童[生徒]一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、以下のような用途でどの程度活用していますか。 (2) 希望する不登校児童[生徒]に対する授業配信
家庭学習		
72	76	家庭学習について、児童[生徒]が自分で学ぶ内容や学び方を決めるなど、工夫して取り組めるような活動を行う

○令和5年度から文言が変更された項目(※下線部は変更箇所)

R6番号		質問項目
小学校	中学校	
主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況		
33		授業において、児童[生徒]自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り <u>入れる</u> *1
34		習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫を <u>する</u> *1
35		各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を <u>設ける</u> *1
ICTを活用した学習状況		
66	70	障害のある児童[生徒]が一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を活用する際、入出力支援装置等を活用し、障害種・障害の状態や特性及び心身の発達の段階等に応じた支援を <u>どの程度行いましたか</u> 。*2
特別支援教育		
67	71	学校の教員は、特別支援教育について理解し、前年度までに、調査対象である第6学年の児童[第3学年の生徒]に対する授業の中で、児童[生徒]の特性に応じた指導上の工夫(板書や説明の仕方、教材の工夫等)を <u>どの程度行いましたか</u> 。*3

小学校教育と中学校教育の連携		
68	72	前年度までに、近隣等の小学校〔中学校〕と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組を <u>どの程度行いましたか</u> 。 ^{*4}
家庭や地域との連携等		
70	74	コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解が <u>深まった</u> ^{*5}

*1 令和5年度は「33 入れた」「34 した」「35 設けた」

*2 令和5年度は「実施しましたか」

*3 令和5年度は「どの程度」が追加

*4 令和5年度は「行った」

*5 令和5年度は「深まりましたか」